

7 川内川流域の特性を活かした茶産地づくり

【成果の要約】

- ・ 出品茶園をモデルにした3年計画での茶園づくりにより、一番茶本茶の粗収益が前年と比較して2割程度増加した。
- ・ 薩摩川内市で県茶業振興大会を初めて開催し、県荒茶品評会等で13人が入賞、県茶経営改善コンクールにおいて産地賞を獲得する等、産地の評価が高まった。
- ・ 有機栽培の生産の検証や玉露生産に取り組み、茶商等から高い評価が得られた。

1 対象

薩摩川内市茶業振興会25人、JA北さつま薩摩川内茶業部会25人、一芯五葉会12人、茶楽6人

2 課題を取り上げた背景・ねらい

- (1) 近年、リーフ茶の消費減退等により、荒茶価格が低迷し、経営環境が厳しくなっている。一方、管内では、品質重視の茶生産を行っているものの、特に、一番茶本茶の収量が少なく粗収益が低いことから、品質を維持しつつ収量を確保できる茶園仕立て技術を検討し、単収向上による経営安定を図る必要がある。
- (2) 令和3年度に薩摩川内市で開催予定の県茶業振興大会に向けて、産地賞及び上位入賞を獲得するために、更なる生産管理技術の向上や、生産・加工技術の高位平準化を図る必要がある。
- (3) 有機栽培茶や玉露等の多様な茶種を導入し、付加価値向上による販路拡大を図るため、安定生産技術を確立する必要がある。

3 活動の内容及び成果

(1) 茶業経営の安定

ア 単収向上支援

出品茶園をモデルに、3年計画での茶園づくりを支援している。その結果、県茶市場における一番茶本茶の平均単価が前年と比較して3割程度高く、粗収益が2割程度増加した。また、平均単価が2年連続、県平均を上回る等、茶商等からの品質に対する評価が向上していることから、同技術に取り組む生産者が増加している。

イ 振興会組織等の活動強化

薩摩川内市茶業振興会の活動について、各種研修会の開催や11月に薩摩川内市で初めて開催された県茶業振興大会に向けた協議等、関係機関一体となって支援を行った。同大会は、新型コロナウイルス感染症対策により縮小開催となったものの、県茶経営改善コンクールで薩摩川内市が初めて産地賞を受賞する等、産地の評価が高まった。

(2) 生産管理技術の向上

ア 出品茶技術を活用した高品質茶生産の検討

組織的に出品茶に向けた取組を開始して4年目。県荒茶品評会等に11工場、14点を出品した。県荒茶品評会で5人(特別賞1人)、県茶経営改善コンクールで8人(特別賞6人)、合計13人が入賞し、目標(入賞者数5人)を大きく上回った。

(3) 多様な茶種の導入支援

ア 生産技術の検証

有機栽培茶については、高品質茶生産に向けた仕立て等の生産技術を実証ほを設置して検証している。一部、病虫害被害が見られるものの生育は良好である。また、玉露については、6工場が生産に取り組み、4品種、12点が県茶市場に上場された。入札時に生産概要を掲示したことから、茶商等の注目を集め、評価が高かった。



出品茶園を活用した最終整枝研修会



県茶業振興大会へ向けた計画検討



出品茶園の摘採判定



県茶経営改善コンクールで産地賞を受賞



高品質有機栽培茶生産に向けた秋整枝指導



県茶市場における薩摩川内玉露の入札状況

4 残された課題

- (1) 単収向上による茶業経営の安定
- (2) 出品茶の継続的な取組による高品質茶生産技術の高位平準化
- (3) 高品質有機栽培茶生産に向けた継続的な技術実証と玉露等の多様な茶種の導入支援

5 取り組んだ普及員

○内村，四元，（里中）